

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間:平成27年4月～令和3年3月(6年)

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市では、中心市街地内の駅周辺エリア、日和山・台町エリア、中町エリア、港エリア、山居倉庫周辺エリアの5つのエリアを拠点として、各エリアの特色を強化し、回遊性を向上させる取り組みを行ってきた。

駅周辺エリアでは、平成9年の大型商業施設撤退後、民間事業者による2度の整備計画断念、市主導による酒田駅周辺地区グランドデザイン策定を経て、平成28年度に図書館やホテル等が一体となった複合施設を整備する酒田駅前地区第一種市街地再開発事業がスタートし、令和2年11月28日にホテル、レストラン、公共施設である酒田駅前交流拠点施設ミライニ等を含む光の湊A棟がオープンした。なお、図書館のミライニ移転は令和4年度を予定している。

日和山・台町エリアでは、日和山公園環境整備事業が完了したほか、旧割烹小幡の改修事業に着手し、令和3年秋オープンに向けた準備が進められている。

中町エリアでは、にぎわい交流スペースを備えた市役所新庁舎、中町にぎわい健康プラザ、中町モール等の公共施設整備に加え、民間主導による飲食業のトライアル店舗が集まる酒田北前横丁や、サービス付き高齢者向け住宅として中町が整備された。また、商店街の中にこれまでなかったジャンルの飲食店や、庄内エリアでは初となる無印良品の酒田POP-UP STOREがオープンする等、幅広い世代が中心市街地を訪れるきっかけが生まれている。

山居倉庫周辺や港エリアでは、観光入込数全体の4割を占める等、本市の主要な観光拠点となっており、山居倉庫は令和3年3月に国史跡に指定される等、新たな付加価値が生まれた。

一方で、中心市街地では居住人口の減少が市全体と比べて進行していることや、活用の見通しが立っていない遊休不動産が複数あること、新型コロナウイルス感染拡大により、経済活動全般に影響が及んでいることから、中心市街地の活性化は道半ばの状況である。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日:毎年度1月1日)

	平成26年度 (計画前年度)	平成27年度 (1年目)	平成28年度 (2年目)	平成29年度 (3年目)	平成30年度 (4年目)	令和元年度 (5年目)	令和2年度 (6年目)
人口	2,627	2,598	2,565	2,537	2,473	2,427	2,392
人口増減数	-55	-30	-53	-29	-41	-35	-32
自然増減数	-37	-41	-46	-35	-27	-30	-44
社会増減数	-18	11	-7	6	-14	-5	12
転入者数	80	75	73	59	59	59	65
転出者数	98	64	80	53	73	64	53

(2) 公示地価

	平成26年度 (計画前年度)	平成27年度 (1年目)	平成28年度 (2年目)	平成29年度 (3年目)	平成30年度 (4年目)	令和元年度 (5年目)	令和2年度 (6年目)
中町二丁目 (毎年1月)	58,000	57,100	56,300	55,700	55,100	54,500	53,800
酒田駅前 (毎年7月)	44,100	43,000	42,700	42,800	43,000	43,200	43,400
2地点平均	51,050	50,050	49,500	49,250	49,050	48,850	48,600

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

①概ね予定通り進捗・完了した

②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

①活性化した

②若干活性化した

③計画策定時と変化なし

④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

中心市街地活性化基本計画に位置付けられた全 58 事業のうち、22 事業が完了、9 事業が令和 4 年度までに完了予定、25 事業が継続中、2 事業が未実施となっており、概ね予定通り進捗・完了したといえる。

歩行者・自転車通行量(平日)の最新値 2,167 人/日は、基準値 2,718 人/日と比較して $\Delta 20.2\%$ ($\Delta 551$ 人)となった。調査地点 3 地点のうち、ジャスコ跡地前、中町モールの 2 地点については前回値から改善し、基準値からの減少もそれぞれ $\Delta 2.8\%$ 、 $\Delta 16.9\%$ に抑えられた。駅周辺エリアについては、再開発事業施設が一部オープンし、残る施設も令和 4 年春にオープン予定であること、中町エリアの新たなにぎわい拠点として期待されている新産業会館も令和 3 年秋にオープン予定であることから、各拠点に新たな人の流れが生まれることが見込まれる。また、中心市街地において民間主導による、公共空間を活用した新たなイベント等の取り組みが生まれており、観光客だけでなく市民の来街機会の増加が期待されている。

商店街空き店舗数の最新値 75 件は、基準値 99 件と比較して $\Delta 24$ 件となった。令和元年 12 月、電気系統トラブルによる複合ビルの閉鎖に伴い、ビル内の 16 物件を集計から除外したことが大きい。16 物件を除いた集計結果 83 件と最新値 75 件を比較しても $\Delta 8$ 件と改善している。また、商店街にこれまでなかったジャンルの飲食店や民営のコワーキングスペース、庄内エリアでは初となる無印良品の酒田 POP-UP STORE がオープンする等、幅広い世代が中心市街地を訪れるきっかけが生まれている。

観光施設入込数の最新値 1,490,694 人は、基準値 1,571,285 人と比較して $\Delta 5.13\%$ ($\Delta 80,591$ 人)となった。一方で、山居倉庫(酒田夢の倶楽)については、本市の観光施設で最も観光客が訪れる場所であり、市全体の観光施設入込数の 2 割を占めている。令和 2 年度以降は新型コロナウイルスによる減少が予想されるが、アフターコロナに向け、国史跡となった山居倉庫や酒田商業高校跡地整備と連携しながら、観光客や市民にとってより魅力的な場所となる活用を図っていく。

公共・公益施設利用者数の最新値 369 人/日は、基準値 363 人/日と比較して 1.6%の増加に留まっており、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、施設利用者数の制限をかけたこと等が影響している。感染拡大以前の令和元年度は 695 人/日、基準値比 91.4%の増加となっており、中町にぎわい健康プラザ整備や、隣接する中町モールとの一体的な活用による使い勝手の良さが効果発現に寄与した。今後も、新型コロナウイルス感染の状況を注視しながら、施設利用者の利便性向上、中心市街地のにぎわいの創出を図っていく。

その他基礎的なデータとして、居住人口については減少傾向、自然減が社会増減を上回る状況が続いているものの、社会増減が増加に転じる年も出始めている。また、公示地価については、各地点付近で実施している再開発事業により、上昇又は下落幅の抑制が図られた。

このような状況から、一部の指標では目標値を下回っているものの、中心市街地においては、若干の活性化が図られたと考えられる。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

中心市街地活性化基本計画は平成 27 年 3 月に内閣総理大臣から認定され、本年 3 月末で計画期間を終了した。この間、5つのエリアを拠点として特色を強化し回遊性のある取り組みを実施してきた。その間、様々な都市機能が整備された。一部の目標指標では達成や、改善の傾向が見られ始めてきたが、参考指標「居住人口」の減少については改善が見られない結果となった。今後は、中心市街地にどうしたら人が住むかを考えることが重要である。

具体的には、学生向けシェアハウスや防火・準防火地域での建替え負担軽減等、空き家を減らす、今ある建物が空き家にならないようにしていく施策も必要と考える。また、生涯活躍のまち構想に基づく移住・定住拠点の整備や、民間による住宅開発も動き始めており、速効性のある移住・定住は難しいかもしれないが、観光客やリピーターを増やすことで、関係人口を取り込んでいってほしい。

認定基本計画は終了したが、継続事業やこれから動き始める事業もあるので、新型コロナウイルスの収束が見えない状況でも、引き続き官民が一体となって中心市街地活性化に取り組む必要があると考える。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

○中心市街地活性化に関するアンケート調査結果概要※

実施期間：令和 3 年 5 月 13 日（木）～令和 3 年 5 月 17 日（月）

方 法：Web アンケート形式（全 11 問）

周 知：無料通話アプリ LINE で、酒田市友達登録者へ通知（調査時点 15,729 人）

回 答 数：1,071 件（男性 451、女性 610、その他 10）

問 9 以前（5 年程度）と比べて中心市街地を訪れる機会が増えたか：

増えた・やや増えた 15.0%

変わらない 39.5%

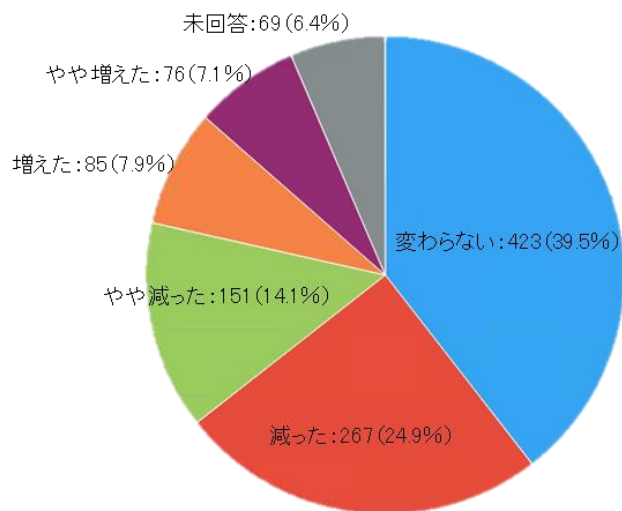
減った・やや減った 39.0%

未回答 6.4%

※アンケート結果詳細については、別紙「中心市街地活性化に関するアンケート調査結果」参照

○アンケートの結果、「変わらない」が最多となったことから、市民意識の変化については、③計画策定時と変化なしを選択した。

(問 9 以前 (5 年程度) と比べて中心市街地を訪れる機会が増えたか_回答グラフ)



6. 今後の取組

今後は、令和元年7月公表の立地適正化計画に基づき、これまで形成してきた市街地を維持し、都市機能の適正な立地と周辺への居住誘導を促進することで、人口減少が進む中でも活力があり、住みやすい、住み続けられる都市づくりの実現を目指していく。

具体的には、酒田駅前及び酒田中町二丁目地区における再開発事業の着実な推進と、中心市街地における一団の未利用地である酒田商業高校跡地を活用し、山居倉庫周辺エリアに交流と日常的な賑わいが生まれる機能整備を進めていく。また、都市機能の維持・更新を図るため、空き家の解体費助成や、新築住宅支援費への割増等、支援を拡充していく。

今後も事業効果の発現状況を把握し、状況に応じて必要な措置を講じていくため、目標指標の計測を継続していく。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
中心商店街の活性化	歩行者・自転車通行量(平日)	2,718人 (H26)	2,779人 (R2)	2,167人	R3.4	⊚
	商店街空き店舗数	99件 (H26)	83件 (R2)	75件	R3.2	A
街なか観光の推進	観光施設入込数	1,571,285人 (H25)	1,648,000人 (R1)	1,490,694人	R1	⊚
街なか交流人口の増進	公共・公益施設利用者数(平日)	363人 (H25)	953人 (R2)	369人	R2.9	B2

<達成状況の分類>

A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない

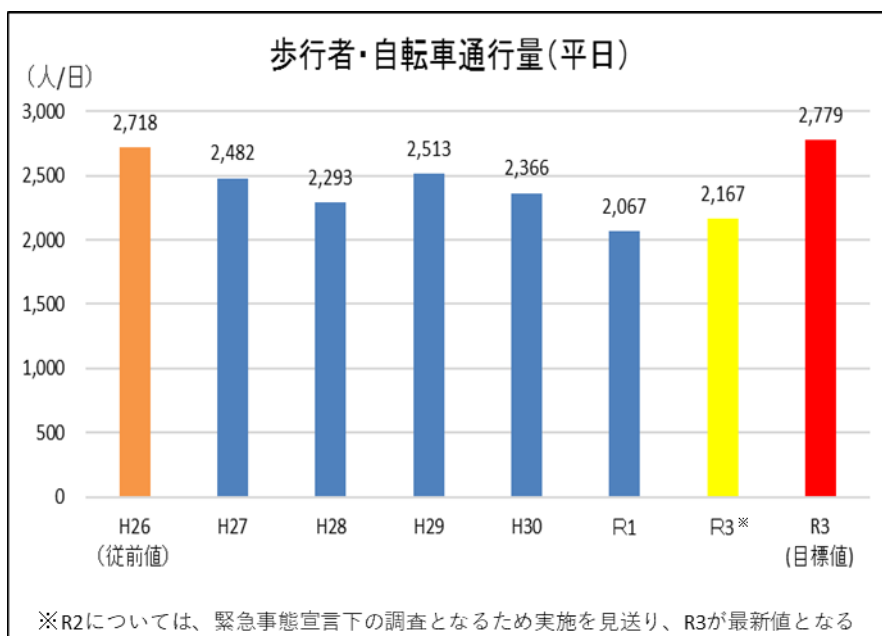
※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、小文字にして下さい。（注：小文字のa、b1、b2、cは下線を引いて下さい）

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「歩行者・自転車通行量（平日）」（目標の達成状況【c】）

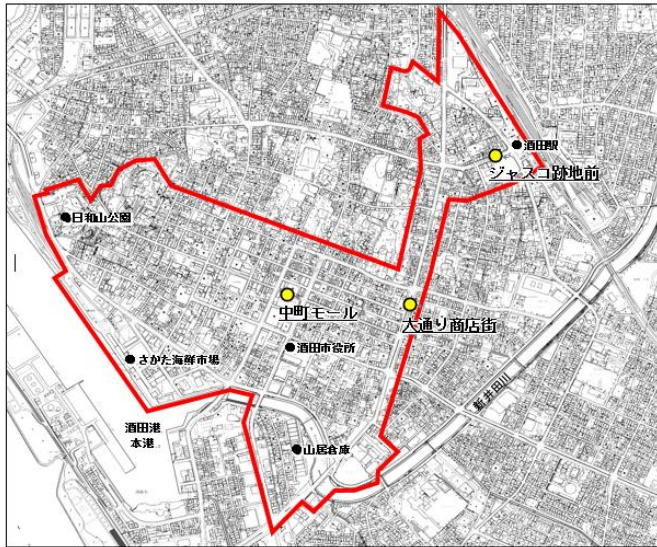
※目標設定の考え方基本計画 P. 70～P. 73 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H26	2,718 (基準年値)
H27	2,482
H28	2,293
H29	2,513
H30	2,366
R1	2,067
R3	2,167
R3	2,779 (目標値)

調査地点図



※調査方法：歩行者・自転車通行者、毎年4月の第4火曜日に3地点において7時～19時で計測

※調査月：令和3年4月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の3地点における歩行者及び自転車の通行量

[ジャスコ跡地前、大通り商店街、中町モール]

(単位：人)

	平成26年度 (計画前年度)	平成27年度 (1年目)	平成28年度 (2年目)	平成29年度 (3年目)	平成30年度 (4年目)	平成31年度 (5年目)	令和3年度 ※
ジャスコ跡地前	719	711	638	749	712	641	699
大通り商店街	674	659	608	520	496	374	367
中町モール	1,325	1,112	1,047	1,244	1,158	1,052	1,101
合計	2,718	2,482	2,293	2,513	2,366	2,067	2,167

※令和2年度は、調査測定日が緊急事態宣言下の外出自粛要請期間中だったため未実施

〈分析内容〉

最新値2,167人/日は、基準値2,718人/日と比較して△20.2% (△551人) となった。調査地点3地点のうち、ジャスコ跡地前、中町モールの2地点については平成31年度からは改善しており、ミライニを含む光の湊A棟オープンや、中町周辺エリアにおける新しいジャンルの飲食店、民営コワーキングスペース、中町モール沿いに無印良品酒田 POP-UP STORE がオープンする等、幅広い世代が中心市街地を訪れるきっかけが生まれており、新型コロナウイルスというマイナス要因の状況でも、これまでの取組みが効果として現れてきている。

一方で、大通り商店街は基準値と比較し△45.5%となっており、駅周辺エリアと中町エリアの結びつきが弱い状況にある。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

① 中町モール改修事業 (酒田市)

事業実施期間	平成27年度～平成30年度【済】 [認定基本計画：平成27年度～平成29年度]
事業概要	中心商店街のシンボリック歩行者専用道路をリニューアル改修し、イベント広場機能や憩いの場としての快適な公共空間として強化整備を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 (都市再生整備計画事業 (湊酒田中心市街地地区 (第2期))) (国土交通省) (平成27年度～平成29年度)
事業目標値・最新値	事業目標値 20人/日 最新値—

及び達成状況	平成 27 年度：設計業務 平成 29 年度：着工 平成 30 年 4 月 23 日：竣工 平成 30 年 4 月 27 日：供用開始
達成した（出来なかった）理由	中町モールの通行量については、新型コロナウイルス感染症の影響があったにもかかわらず、平成 31 年度値から改善しており、周辺商店街の利用者増等が影響したと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	供用開始以降、各種イベントの開催等によりイベント会場としての認知度向上や、夏季は平日でも噴水で遊ぶ家族連れで賑わう等、恒常的な賑わいが生まれつつある。また、周辺商店街には庄内地方初出展となる無印良品の酒田 POP-UP STORE をはじめ、これまでなかったジャンルの飲食店がオープンする等、幅広い世代が中心市街地を訪れるきっかけが生まれている。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら、イベント利用等、公共空間の有効活用を図る。

②. にぎわい交流施設整備事業（市庁舎併設）（酒田市）

事業実施期間	平成 25 年度～平成 29 年度【済】
事業概要	市庁舎の新築工事にあわせ、庁舎内へにぎわい交流施設を整備。中心市街地の各エリアへの回遊性向上及び周辺エリアと連携したにぎわい創出を推進するもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 （暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地地区）） （国土交通省）（平成 25 年度～平成 29 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 109 人/日 最新値— 平成 27 年 12 月：第 1 期工事完了 平成 29 年 6 月：第 2 期工事完了 平成 30 年 3 月：付帯駐車場、外構整備完了 施設利用者数：110 人/日（平成 30 年度） 112 人/日（令和元年度） 84 人/日（令和 2 年度）
達成した（出来なかった）理由	施設利用者数としては、供用開始以降、順調に推移していたものの、最新値は新型コロナウイルス感染症により不特定多数が利用する公共施設の利用を控えたことが影響したと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	にぎわい交流サロンにおいて観光パンフレットやイベント情報の提示を行うことで、待ち合わせや打ち合わせスペースとして気軽に利用されており、来街機会の増加に寄与している。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら、感染予防対策を実施した上で、街なかの回遊に繋がるよう、市民交流や情報発信の場として提供していく。

③. 中町にぎわい健康プラザ整備事業（酒田市）

事業実施期間	平成 27 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	中心市街地の空きビル（旧パチンコ店）を再生し、市民交流や街なか回遊のための集いのスペースと、健康づくりの拠点となる健康増進スペースを整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 （暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地中町地区）） （国土交通省）（平成 27 年度～平成 28 年度）
事業目標値・最新値	事業目標値 84 人/日 最新値 130 人/日 達成

及び達成状況	平成 27 年度：設計業務 平成 28 年度：着工 平成 29 年 2 月 28 日：竣工 平成 29 年 4 月 9 日：供用開始 【1 日平均利用者数】 平成 29 年度：130 人（53,350 人/年） 平成 30 年度：177 人（64,701 人/年） 令和元年度：162 人（59,362 人/年） 令和 2 年度：130 人（47,641 人/年）
達成した（出来なかった）理由	施設利用者数について、令和元年度からは新型コロナウイルスによる外出自粛や公共施設の閉鎖、利用制限等により減少傾向にあるものの、健康増進スペースや集いのスペース利用者の増加が、来街者の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地において、市民が健康づくりに取り組むことができる環境や、気軽に休憩できる場が整備された。また、イベント等では、隣接する中町モールと一体的に活用することにより、利便性の向上や、にぎわい創出に寄与している。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら、施設の消毒等を徹底するとともに、人数制限やトレーニングマシンを制限する等の感染予防対策を実施した上で、利便性の向上を図る。

④. 食のさかたチャレンジ事業（酒田北前横丁屋台村運営協議会）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	飲食業を志す人を対象に、安価な家賃でのトライアル店舗の開設を実施し、将来の担い手育成、にぎわい創出を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	地域商業自立促進事業（経済産業省）（平成 27 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 94 人/日 最新値-14 人/日（= a - b） 未達成 平成 27 年 10 月：酒田柳小路「北前横丁」屋台村が開業 平成 28 年 4 月：10 店舗全てが入居しグランドオープン 平成 29 年 10 月：二周年を迎え、来客数 10 万人を達成 平成 30 年 10 月：三周年を迎え、来客数 15 万人を達成 平成 30 年 12 月：第二期グランドオープン、10 店舗中、3 店舗が新規出店 令和 3 年 2 月：空き店舗 3 【中町モール歩行者・自転車通行量_16：00～19：00】 平成 27 年度：284 人(b) 平成 28 年度：310 人 平成 29 年度：364 人 平成 30 年度：350 人 平成 31 年度：288 人 令和 3 年度：270 人(a)
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルスによる夜間の飲食店利用自粛の影響があるものの、本事業により整備された飲食店を目的に来街する等、新たな人の流れが生まれた。
計画終了後の状況及び事業効果	市内外を問わず多くの来客があり、工夫あるイベントを企画・実施する等、まちなぎわいと活性化を意識した運営を行っており、来街機会の増加、にぎわいの創出に寄与している。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら、感染予防対策を実施した上で、来街機会の増加、にぎわいの創出を図る。

⑤. 花と緑のまちづくり事業（酒田市）【平成 30 年度追加】

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	彩り豊かな花と緑による市街地の美化事業の実施
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度） [認定基本計画：平成 31 年 4 月～令和 3 年 3 月]
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 ー 平成 30 年度：3 回開催（5, 7, 9 月）、総参加者数 166 名 令和元年度：3 回開催（5, 8, 12 月）、総参加者数 165 名
達成した（出来なかった）理由	令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により事業休止となったものの、当日のイベント参加だけでなく、市民が多く訪れる市庁舎や中町モールへフラワーバスケットを設置することにより、街なかの魅力向上に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	フラワーバスケットを設置することで、花と緑に市民が触れる機会が増えた。また、市民と協働で制作することにより、その技術を自宅でも取り入れ、まち全体で花と緑を増やすことや、まちづくりに携わることによる市民の美化意識の醸成にも繋がった。
事業の今後について	市庁舎周辺の民間事業者等へも普及させることで、「点」ではなく「線」として取組みを進めて行く。また市民と行政の協働の事業として、市民及び事業者が主体となる比率を高めていく。

⑥. 産業会館多目的ホール・情報センター（仮称）整備事業（個人施行者）
【平成 30 年度追加】

事業実施期間	令和元年度～令和 3 年度【実施中】 [認定基本計画：令和元年度～令和 2 年度]
事業概要	市民と企業との協働、交流の場となるホール等の整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 （暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地中町地区（第 2 期））（国土交通省）（令和元年度） [認定基本計画：令和元年度～令和 2 年度]
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 ー 令和元年度～令和 2 年度：既存建物解体工事 令和 2 年度～令和 3 年度：新築工事 令和 3 年秋：オープン（予定）
達成した（出来なかった）理由	事業計画の見直しにより計画期間内の完了に至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	令和 3 年秋：オープン
事業の今後について	事業の着実な推進により、市民と企業との協働の場、交流の場となる多目的センターを整備し、来街機会の拡大、にぎわいの創出を図る。

⑦. 情報板整備事業（酒田市）【令和元年度追加】

事業実施期間	令和 2 年度～令和 6 年度【実施中】 [認定基本計画] 令和 2 年度～令和 4 年度【実施中】
事業概要	酒田駅周辺地区への情報板（デジタルサイネージ等）の整備
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業湊酒田中心市街地地区（第 3 期） （国土交通省）（令和 2 年度～令和 6 年度） [認定基本計画：社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画（湊酒田中心市街地地区（第 3 期））（国土交通省）（令和 2 年度～令和

	4年度)]
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 ー 令和2年11月：工事完了
達成した(出来なかった)理由	デジタルサイネージや観光案内看板を整備することで、観光地や見どころ等を紹介し、本市の観光振興及びまちなか回遊の向上に寄与している。
計画終了後の状況及び事業効果	観光名所等を紹介するまちなかウォールマップでは、一部マグネットを採用し、季節ごとの見どころを市民が書き込んでPRする等、汎用性の高い使い方により、まちなか回遊の向上に寄与している。
事業の今後について	酒田駅前広場整備事業の実施に合わせて令和4年度に情報板を整備することで、駅前からまちなかへのさらなる回遊促進を図る。

⑧. 魅力ある図書館づくり事業（酒田市）【令和元年度追加】

事業実施期間	令和2年度【済】 [認定基本計画] 令和2年度～令和4年度
事業概要	デジタルサイネージを活用して発信する歴史・文化資源や、食・観光資源、各種イベント情報、生活情報等のコンテンツを作成
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業湊酒田中心市街地地区（第3期） （国土交通省）（令和2年度） [認定基本計画：社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画（湊酒田中心市街地地区（第3期））のうち効果促進事業）（国土交通省）（令和2年度～令和4年度）]
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 ー 令和2年11月：完成
達成した(出来なかった)理由	デジタルサイネージを活用し、観光地や歴史・文化的資料等を紹介することで、本市の観光振興及びまちなか回遊の向上に寄与している。
計画終了後の状況及び事業効果	光丘文庫プロモーション映像や、本市出身の詩人吉野弘氏の紹介映像、観光動画等を配信することで、来街者への情報発信やまちなか回遊の向上に寄与している。
事業の今後について	情報発信やコンテンツを充実することで、ミライニ及び各観光拠点施設の利用者増を図り、駅前からまちなかへの回遊促進を図る。

●今後の対策

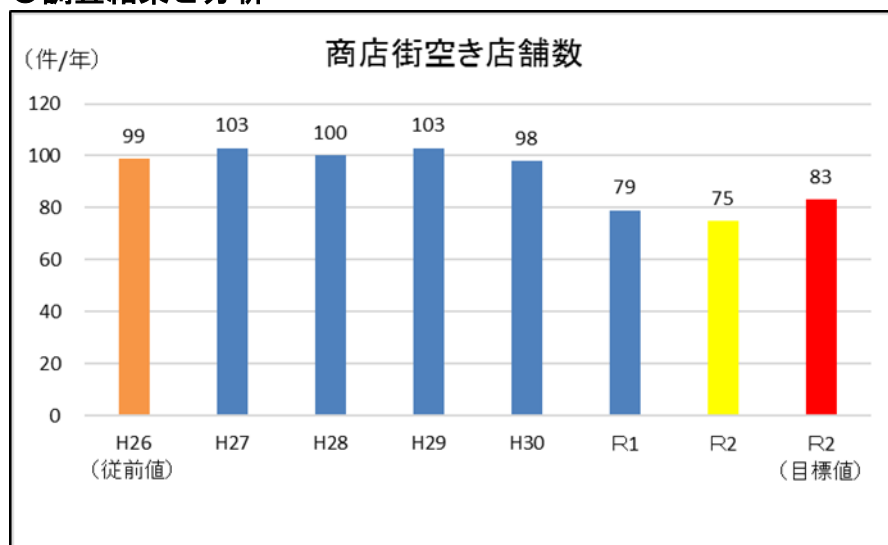
多目的ホール、情報センター等の機能を持つ新産業会館が令和3年秋オープン予定であり、中町エリアにおける新たなにぎわいの拠点として期待されている。また、駅周辺エリアでは、令和4年春にミライニのグランドオープンを予定しており、人の流れが増加することが見込まれる。

今後は、これらのハード整備による効果に加え、ハードを活用したソフト事業の推進や、これまで整備してきた施設や文化財、公有地を有効活用し、豊富な経営ノウハウを持つ民間と連携した公民連携によるまちづくりを推進していくことで、まちなかへの来街機会増加、回遊の促進を図っていく。

(2)「商店街空き店舗数」(目標の達成状況【A】)

※目標設定の考え方基本計画 P. 73～P. 76 参照

●調査結果と分析



年	(件)
H26	99 (基準年値)
H27	103
H28	100
H29	103
H30	98
R1	79
R2	75
R2	83 (目標値)

※調査方法：商店街の空き店舗、毎年8月に5商店街において現地調査

※調査月：令和3年2月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の5商店街における空き店舗数

[中町中和会商店街、中通り商店街、大通り商店街、酒田駅前商店街、協同組合たくみ銀座]

(単位：件)

	平成26年度 (計画前年度)	平成27年度 (1年目)	平成28年度 (2年目)	平成29年度 (3年目)	平成30年度 (4年目)	令和元年度 (5年目)	令和2年度 (6年目)
中町中和会商店街	10	8	9	9	6	6	7
中通り商店街	25	22	19	24	25	25	23
大通り商店街	10	11	12	10	10	8	10
酒田駅前商店街	24	28	25	24	25	24	19
協同組合たくみ 銀座	30	34	35	36	32	16	16
合計	99	103	100	103	98	79	75

〈分析内容〉

商店街空き店舗数の最新値75件は、基準値99件と比較して△24件となった。令和元年12月、電気系統トラブルによる複合ビルの閉鎖に伴い、ビル内の16物件を集計から除外したことが大きい。16物件を除いた集計結果83件と最新値75店舗を比較しても△8店舗と改善している。また、商店街にこれまでなかったジャンルの飲食店や民営のワーキングスペース、庄内エリアでは初となる無印良品の酒田POP-UP STOREがオープンする等、幅広い世代が中心市街地を訪れるきっかけが生まれていることや、駅前再開発の進捗に合わせて、空き店舗の更新等が図られてきたことが改善した要因と考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

① 空き店舗改装助成事業 (酒田市)

事業実施期間	平成18年度～【実施中】
事業概要	空き店舗を活用して新規に開業する者、又は当該店舗を賃貸する者に改装費を助成し、空き店舗への出店を促進するもの。

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 27 年 4 月～令和 3 年 3 月）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 各新規開業支援事業による効果△20 件/5 年 目標達成 活用件数（中心市街地内）：6 件（平成 28 年度） 8 件（平成 29 年度） 15 件（平成 30 年度） 7 件（令和元年度） 2 件（令和 2 年度）
達成した（出来なかった）理由	各種商店街振興サービスのワンストップ化を図るため官民連携によって開設された中心市街地まちづくりセンター、平成 30 年度からは酒田市産業振興まちづくりセンター（サンロク）が事業を展開することで、円滑な支援に繋がり、目標達成に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	平成 30 年度からは個人、企業間のニーズを繋ぐ産業振興まちづくり推進事業の開業支援補助金に包含され、新規創業、雇用創出に寄与している。
事業の今後について	引き続き補助事業の PR を強化しつつ、申請内容のブラッシュアップに注力することで、空き店舗の減少を図る。

②. 空き店舗入居者支援事業（酒田市）

事業実施期間	平成 13 年度～平成 30 年度【済】
事業概要	空き店舗を活用して新規に開業する者の賃貸借料を助成し、空き店舗への出店を促進するもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 各新規開業支援事業による効果△20 件/5 年 目標達成 活用件数（中心市街地区域内）：4 件（平成 28 年度） 6 件（平成 29 年度）
達成した（出来なかった）理由	各種商店街振興サービスのワンストップ化を図るため官民連携によって開設された中心市街地まちづくりセンター、平成 30 年度からは酒田市産業振興まちづくりセンター（サンロク）が事業を展開することで、円滑な支援に繋がり、目標達成に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	新たな店舗の開業と空き店舗の抑制に寄与しており、中心市街地等の活性化につながった。平成 30 年度以降は、画一的支援から、より将来性や先進性があり収益性のある開業を支援するため、開業支援補助金を創設し、新規出店時の負担軽減を図っている。
事業の今後について	開業支援補助金等の補助金やセミナー開催等の各種創業支援を包含した産業振興まちづくり推進事業により、出店後の負担軽減、ビジネスマッチング等、持続性のある創業を支援していく。

③. 創業促進事業（酒田市・酒田商工会議所）

事業実施期間	平成 26 年度～平成 30 年度【済】
事業概要	創業支援センターを開設し、創業相談のワンストップ化や創業塾等を実施し、空き店舗の活用を含めた新規開業を促進するもの。
国の支援措置名及び支援期間	創業支援事業（経済産業省）（平成 26 年度～平成 30 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 各新規開業支援事業による効果△20 件/5 年 目標達成

	活用件数：8件（平成28年度） 8件（平成29年度）
達成した（出来なかった）理由	各種商店街振興サービスのワンストップ化を図るため官民連携によって開設された中心市街地まちづくりセンター、平茂30年度からは酒田市産業振興まちづくりセンター（サンロク）が事業を展開することで、円滑な支援に繋がり、目標達成に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	創業支援コーディネーターがワンストップで対応していたほか、開業後のフォローアップも行い、多くの相談が寄せられた。平成30年度からは産業振興まちづくり推進事業に包含され、新規創業、雇用創出に寄与している。
事業の今後について	開業支援補助金等の補助金やセミナー開催等の各種創業支援を包含した産業振興まちづくり推進事業により、出店後の負担軽減、ビジネスマッチング等、持続性のある創業を支援していく。

●今後の対策

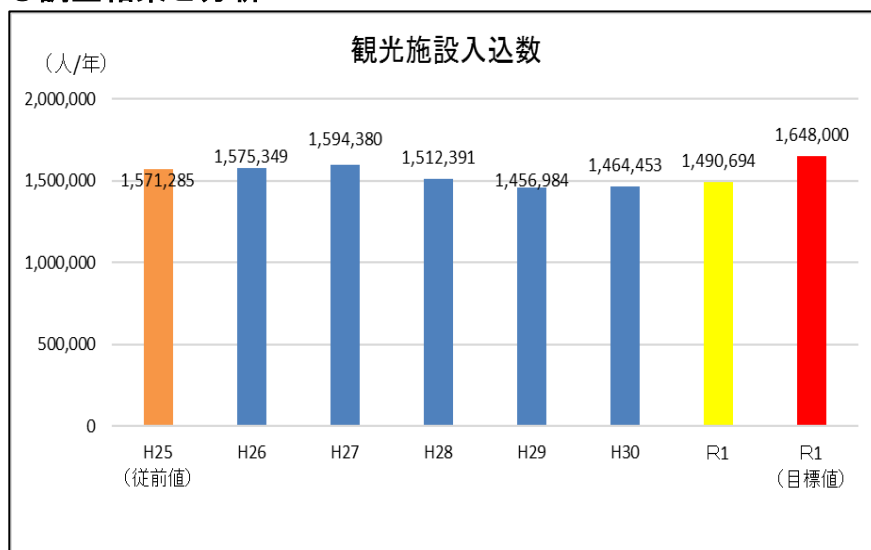
引き続き、酒田市産業振興まちづくりセンター（サンロク）の創業支援等により、新規出店・投資誘引を図り、空き店舗の減少を目指す。

なお、中心市街地に限らず新型コロナウイルス感染拡大は経済活動全般に影響しており、即効性のある事業者支援やキャッシュレス推進等、感染拡大を防止しつつ地域経済の早期回復を図るための支援を関係機関と連携しながら継続していく。

(3) 「観光施設入込数」(目標の達成状況【c】)

※目標設定の考え方基本計画 P. 76～P. 79 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H25	1,571,285 (基準年値)
H26	1,575,349
H27	1,594,380
H28	1,512,391
H29	1,456,984
H30	1,464,453
R1	1,490,694
R1	1,648,000 (目標値)

※調査方法：観光施設への入込数、毎年度の実績（累計）を15施設で聞き取り調査

※調査月：令和元年4月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の15施設における入込数

[山居倉庫（酒田夢の倶楽）、さかた海鮮市場、みなと市場、旧白崎医院、旧鍛屋、海洋センター、山王くらぶ、本間家旧本邸、庄内米歴史資料館、海向寺、相馬楼、資料館、NKエージェント（旧割烹小幡）、山居館、本間美術館]

〈分析内容〉

最新値 1,490,694 人は、基準値 1,571,285 人と比較して△5.13%（△80,591 人）となった。旧割烹小幡（NK エージェント）が注目を集めた平成 21 年度をピークに横ばいで推移してきたが、旧割烹小幡改修事業の完了が令和 3 年秋となり、計画期間内での効果発現には至らなかった。また、山居倉庫対岸の酒田商業高校跡地活用も事業継続中につき、効果発現に至っていないことも目標指標未達成の要因として考えられる。

一方で、山居倉庫（酒田夢の倶楽）については、近年の NHK 連続テレビ小説「おしん」再放送によるブーム再燃や、外国クルーズ船の寄港に伴う海外からの観光客増加等、観光資源としての価値が再認識され、観光施設入込数の増加に寄与している。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 山居倉庫周辺整備事業（酒田市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	本市で最大の観光入込数を誇り、シンボルである山居倉庫の周辺にある低・未利用地において、山居倉庫と一体的な環境整備を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 36,500 人 — 山居倉庫（酒田夢の倶楽観光入込数） 平成 27 年度：67.7 万人 平成 28 年度：71.9 万人 平成 29 年度：66.1 万人

	平成 30 年度 : 70.5 万人 令和元年度 : 81.0 万人
達成した（出来なかった）理由	山居倉庫（酒田夢の倶楽）の入込数は海外観光客の増加等により上昇傾向にあるが、山居倉庫周辺の低未利用地については、計画期間内での事業完了には至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	平成 28 年度 : 酒田商業高校跡地活用に関する市民アンケート・サウンディング調査実施 令和 2 年度 : 旧酒田商業高校校舎等のアスベスト調査実施 酒田商業高校跡地活用基本構想（案）に係る意見公募（パブリックコメント）実施
事業の今後について	中心市街地の活性化と低未利用地の有効活用を図るため、民間の資金やアイデアを活用し、山居倉庫周辺エリアに交流と日常的な賑わいが生まれる機能を整備するため、令和 3 年度は市が校舎等の解体工事を行い、跡地を活用する民間事業者募集を予定している。

②. 旧割烹小幡改修事業（酒田市）

事業実施期間	平成 28 年度～令和 3 年度【実施中】
事業概要	映画「おくりびと」のロケ地として注目を集め、その建物の持つ歴史的、文化的価値が見直されている旧割烹小幡を改修し、新たな観光拠点として整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成 31 年度～令和 3 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 25,000 人 ー
達成した（出来なかった）理由	活用方針の検討等、事業計画の見直しにより、計画期間内では工事未完了となった。
計画終了後の状況及び事業効果	平成 28 年度 : 市民ワークショップ実施 平成 29 年度 : 保存活用方針決定、市民説明会実施 令和元年度 : 運営予定者決定 令和 2 年度 : 改修工事
事業の今後について	令和 3 年度秋のオープンに向け、引き続き外構工事を進め、隣接する日和山公園を含めた一帯が、市民や観光客の憩いの場となるよう目指す。

③. 中心市街地循環バス運行事業（酒田市）

事業実施期間	平成 27 年度【済】
事業概要	公共交通機能を充実させ、中心市街地内の回遊性向上を図るための社会実験として、拠点施設や観光施設を巡回するバスを運行するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 3,870 人 ー 平成 27 年度累計利用者 3,159 人
達成した（出来なかった）理由	単年度の実施となり、効果は限定的なものとなった。
計画終了後の状況及び事業効果	土日祝日の 136 日間運行し、全体の約 59%が中心市街地内の停留所で乗降したことで、観光客の回遊性向上に寄与した。

事業の今後について	令和4年度の公共交通改編に伴い、日和山・台町方面へのアクセスを向上させ、観光客の利便性向上を図っていく。
-----------	------------------------------------------------------

④. みなと市場まつり事業（酒田市みなと市場テナント会）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	港エリアの観光拠点のひとつである「酒田みなと市場」を生かし、みなとオアシスならではのイベントを開催するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 1,000人 — 港エリア観光施設入込数（3施設計） 平成27年度：666,126人 平成28年度：619,323人 平成29年度：578,961人 平成30年度：577,068人 令和元年度：571,972人
達成した（出来なかった）理由	計画期間中、一部開催できなかったイベントもあり、港エリアの観光入込数は計画開始年度の数値を下回る結果となった。
計画終了後の状況及び事業効果	一部施設では、計画開始年度の利用者を上回っており、施設毎の取組みが施設の魅力向上、観光客増加に寄与したと考えられる。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら、港エリアへの誘客を図るため、引き続き魅力的なイベントを実施するとともに、観光客だけでなく市民が利用しやすい施設として機能向上を図っていく。

⑤. 観光戦略・インバウンド推進事業（酒田市）【令和元年度追加】

事業実施期間	平成31年度～【実施中】
事業概要	観光誘客に取り組む企業、団体等や、集客が見込めるコンベンション開催を支援するもの
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和3年3月） 地方創生推進交付金（内閣府）（平成31年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 — 外国クルーズ船寄港実績 平成29年度：1回 平成30年度：3回 令和元年度：5回
達成した（出来なかった）理由	外国人観光客の受入態勢整備が進み、外国クルーズ船の寄港増加、外国人観光客の増加が図られた。
計画終了後の状況及び事業効果	外国人旅行者の受入態勢整備のため、民間事業者の英文ホームページ作成に対する補助金交付や、北庄内地域通訳案内士養成講座等の実施により、外国人観光客の受入れ体制強化につながった。
事業の今後について	インバウンドについては、回復期に向けた準備をしながらも、数年の間は国内向け（特に近場、個人旅行、自動車利用）を中心に据え、酒田観光戦略推進協議会を主体に市内の観光事業者と連携し、キャンペーンや体験プログラムなどの着地型観光に取り組む。

●今後の対策

旧割烹小幡改修事業については、日和山・台町エリアにおける新たな観光拠点、市民の憩いの場としての活用が見込まれる。

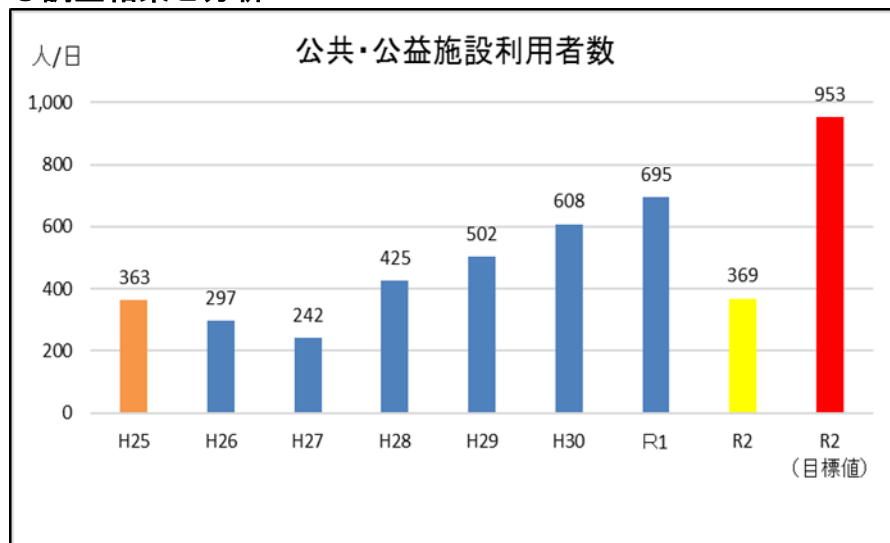
酒田商業高校跡地については、交流と日常的な賑わいが生まれる機能を整備するため、市が校舎等の解体工事を行い、跡地を活用する民間事業者募集に向けた準備を進めていく。

令和2年度以降の数値については、新型コロナウイルスの影響による低迷が予想される。数年の間は国内向け（特に近場、個人旅行、自動車利用）を中心に据え、酒田観光戦略推進協議会を主体に市内の観光事業者と連携し、キャンペーンや体験プログラムなどの着地型観光に取り組むとともに、インバウンドについては回復期に向けた準備を整える。

(4)「公共・公益施設利用者数(平日)」(目標の達成状況【B2】)

※目標設定の考え方基本計画 P. 79~P. 81 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H25	363 (基準年値)
H26	297
H27	242
H28	425
H29	502
H30	608
R1	695
R2	369
R2	953 (目標値)

※調査方法：公共・公益施設の利用者、毎年9月の第2火曜日に5施設において計測

※調査月：令和元年9月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の5施設における利用者数

[交流ひろば、街なかキャンパス(平成31年3月末閉館)、市庁舎(にぎわい交流施設併設)、中町庁舎、中町にぎわい健康プラザ]

(単位：人)

	平成25年度 (基準値)	平成26年度 (計画前年度)	平成27年度 (1年目)	平成28年度 (2年目)	平成29年度 (3年目)	平成30年度 (4年目)	令和元年度 (5年目)	令和2年度 (6年目)
交流ひろば	331	279	230	273	208	235	232	112
街なかキャンパス	32	18	12	26	37	37	-	-
市庁舎(にぎわい交流施設併設)	-	-	-	126	116	110	112	84
中町にぎわい健康プラザ	-	-	-	-	141	183	285	126
中町庁舎	-	-	-	-	-	43	66	47
合計	363	297	242	425	502	608	695	369

〈分析内容〉

公共・公益施設利用者数の最新値 369 人/日は、基準値 363 人/日と比較して 1.6%の増加に留まっており、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、施設利用者数の制限をかけたこと等が影響している。

一方で、感染拡大以前の令和元年度は 695 人/日、基準値比 91.4%の増加となっており、中町にぎわい健康プラザ整備や、隣接する中町モールとの一体的な活用による利便性が効果発現に寄与したと考えられる。また、令和元年度に中町庁舎に移転した酒田市産業振興まちづくりセンター(サンロク)については、コワーキング会員数が年々増加傾向にあり、年間利用者数も開設初年度を上回る状況を維持している。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 中町にぎわい健康プラザ整備事業（酒田市）

事業実施期間	平成 27 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	中心市街地の空きビル（旧パチンコ店）を再生し、市民交流や街なか回遊のための集いのスペースと、健康づくりの拠点となる健康増進スペースを整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 （暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地中町地区）） （国土交通省）（平成 27 年度～平成 28 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 200 人/日 最新値 126 人/日 目標未達成 平成 27 年度 : 設計業務 平成 28 年度 : 着工 平成 29 年 2 月 28 日 : 竣工 平成 29 年 4 月 9 日 : 供用開始 年間利用者数 : 53,350 人（平成 29 年度） 64,701 人（平成 30 年度） 59,362 人（令和元年度） 47,641 人（令和 2 年度）
達成した（出来なかった）理由	施設利用者数について、令和元年度は事業目標値達成するものの、令和元年度後半からの新型コロナウイルスによる外出自粛、公共施設の閉鎖、利用制限等により事業目標値を下回った。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地において、市民が健康づくりに取り組むことができる環境や、気軽に休憩できる場が整備された。また、イベント等では、隣接する中町モールと一体的に活用することにより、利便性の向上や、にぎわい創出に寄与している。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染状況の推移を踏まえながら、施設の消毒等を徹底するとともに、人数制限やトレーニングマシンを制限する等の感染予防対策を実施した上で、利便性の向上を図る。

②. 中町庁舎改修事業（酒田市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	中心商店街に隣接する空き庁舎予定の公的不動産を有効活用し、市民活動や文化活動等の拠点としてリニューアル整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 130 人 最新値 47 人 目標未達成 サンロク内コワーキング年間利用者数（会員数） 平成 30 年度 : 3,320 人（57 人） 令和元年度 : 5,834 人（148 人） 令和 2 年度 : 4,950 人（211 人）
達成した（出来なかった）理由	初年度から令和元年度にかけて上昇するも、令和元年度後半からは新型コロナウイルスによる外出自粛、公共施設の閉鎖、利用制限等により事業目標値を下回った。
計画終了後の状況及び事業効果	令和元年度に中町庁舎へ移転したサンロクのコワーキング会員数は増加傾向にあり、年間利用者数も開設初年度を上回る状況を維持している。
事業の今後について	サンロクについては、令和 3 年秋に新産業会館への移転を予定しているため、中町庁舎の活用方針等の検討を行う必要がある。

③. にぎわい交流施設整備事業（市庁舎併設）（酒田市）

事業実施期間	平成 25 年度～平成 29 年度【済】
事業概要	市庁舎の新築工事にあわせ、庁舎内へにぎわい交流施設を整備。中心市街地の各エリアへの回遊性向上及び周辺エリアと連携したにぎわい創出を推進するもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 （暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地地区）） （国土交通省）（平成 25 年度～平成 29 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 260 人 最新値 84 人 目標未達成 平成 27 年 12 月：第 1 期工事完了 平成 29 年 6 月：第 2 期工事完了 平成 30 年 3 月：付帯駐車場、外構性備完了 施設利用者数：110 人/日（平成 30 年度） 112 人/日（令和元年度） 84 人/日（令和 2 年度）
達成した（出来なかった）理由	供用開始以降、順調に推移していたものの、最新値は新型コロナウイルス感染拡大により不特定多数が利用する公共施設の利用を控えたことが影響したと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	にぎわい交流サロンにおいて観光パンフレットやイベント情報の提示を行うことで、待ち合わせや打ち合わせスペースとして気軽に利用されており、来街機会の増加に寄与している。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染状況の推移を踏まえながら、感染予防対策を実施した上で、街なかの回遊に繋がるよう、市民交流や情報発信の場として提供していく。

●今後の対策

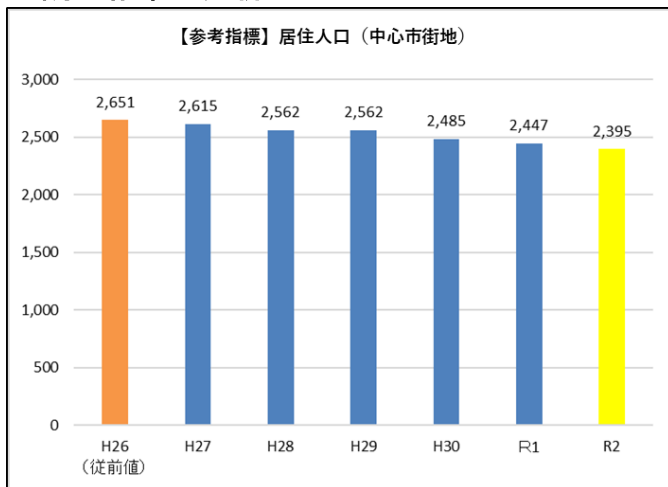
引き続き新型コロナウイルス感染対策に取組みながら、施設利用者の利便性向上や、コワーキングスペース利用等、新しい生活様式等のニーズに応えた公共・公益施設の運営に取組み、中心市街地のにぎわい創出を図っていく。

サンロクについては、令和 3 年秋に新産業会館への移転を予定しているため、中町庁舎退去後の活用方法等の検討を行う必要がある。

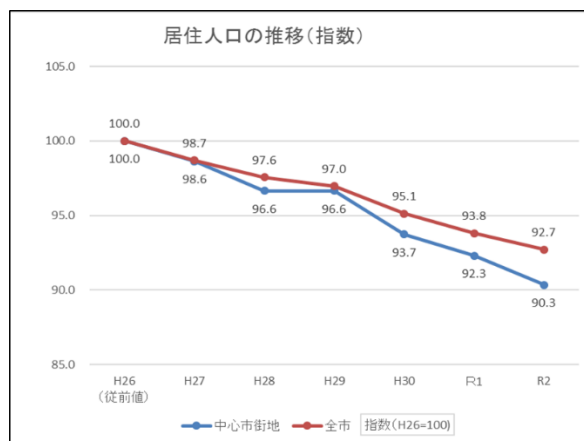
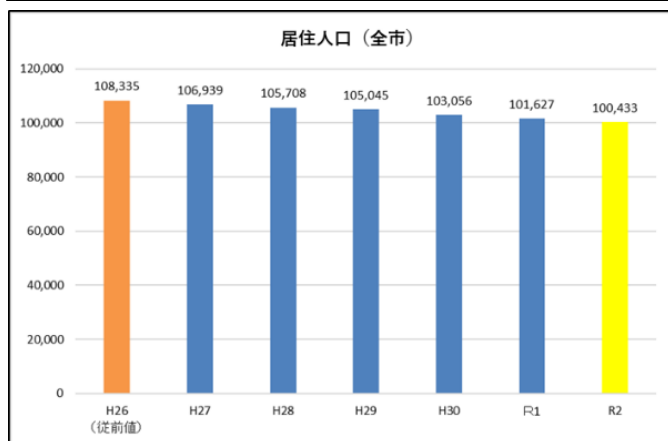
(5)「居住人口(参考指標)」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方基本計画 P.81~P.82 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H26	2,651 (基準年値)
H27	2,615
H28	2,562
H29	2,562
H30	2,485
R1	2,447
R2	2,395
R2	2,651 (目標値)



※調査方法：居住人口、毎年9月末時点での住民基本台帳により12町丁で調査

※調査月：令和元年9月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の12町丁における居住人口

[船場町一丁目、船場町二丁目、日吉町二丁目、幸町二丁目、二番町、中町一丁目、中町二丁目、中町三丁目、本町一丁目、本町二丁目、本町三丁目、山居町一丁目]

〈分析内容〉

居住人口の最新値2,395人は、基準値2,651人と比較して△9.6%(△256人)となった。中心市街地では、居住人口の減少が市全体の人口減少と比較しても進行している。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. てとて中町整備事業(株福祉のひろば)【平成27年度追加】

事業実施期間	平成27年度【済】
事業概要	中心商店街に位置する空きビルを再生し、高齢者向け住宅やフィットネス施設、カフェ等の複合施設として整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値—
達成した(出来なか	フィットネス施設やカフェ等の機能を有しており、中心商店街と

った) 理由	いう立地環境もあわせ、世代を超えた地域コミュニティの増進に寄与している。
計画終了後の状況及び事業効果	高齢者向け住宅として20戸が整備され、現在14戸が入居。
事業の今後について	引き続き中心市街地における居住の拠点として維持していく。

●今後の対策

今後は、令和元年7月公表の立地適正化計画に基づき、これまで形成してきた市街地を維持し、都市機能の適正な立地と周辺への居住誘導を促進することで、人口減少が進む中でも活力があり、住みやすい、住み続けられる都市づくりの実現を目指していく。

直ちに減少を止めることは困難であるが、減少の速度を緩やかにするとともに、観光客や移住者等を取込み、関係人口の増加を図る必要がある。山居倉庫周辺エリアの消防本署跡地においては、地域交流拠点機能を含む移住者向け住宅の整備を進めており、令和3年4月に決定した事業予定者と協議を進めていく。

また、令和3年度からは空き家の解体費助成や、中心市街地のほとんどを包含する防火・準防火地域内への新築住宅支援費を割増する仕組みがスタートする等、居住環境の改善や居住促進に向けた取組みを実施していく。